日本政府の政策やその他の事項について
さらに詳しくお知りになりたい方は、
以下のサイトをご覧ください。
外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/
Web Japan
http://web-japan.org/

Japan Fact Sheet

レジャー

自由時間増加への流れ

余暇の増加と多様化

日本には、いくつかの連休時期があります。一例が4月末から5月初めにかけてのゴールデンウィークで、そのほかの長期連休の時期としては年末年始と8月半ばのお盆があります。

余暇利用は、この3つの時期に集中します。その結果、年に3回、人々の群れが公共交通機関や道路に押し寄せることは避けられない問題となりました。これらの期間、新東京国際空港（成田空港）などの国際空港では海外旅行客がピークに達し、毎回大混雑します。

混雑を避けるため、フレックス休暇を採用する企業もあります。年次休暇制度は企業の方針として受け入れられ、連続して数日の休みを取ることも以前より簡単になりました。また、1997年4月に施行された労働基準法改正で、週40時間制が実施されました。その結果、週休2日制の時代がついに確固たるものになったのです。

休暇利用は分散化の傾向にありますが、その一因は、旅慣れた日本人が料金の高いハイシーズンを避けたがるようになったことです。

余暇開発センター発行の『レジャー白書』によると、1996年、日本のレジャー市場は84兆円に達しましたが、このうち3分の1がパチンコや競馬などギャンブルの収益によるものでした。

実際の活動や15歳以上を対象とした世論調査によると、休暇期間が短いほど、ギャンブルのような娯楽を楽しむことが増えます。

順位	レジャーの種類	人数（百万人）
1	外食	71.6
2	国内旅行	62.7
3	ドライブ	61.2
4	カラオケ	56.9
5	ビデオ鑑賞	43.4
5	酒場での飲酒	43.4
5	動物園・博物館など	43,4
8	音楽鑑賞	41.7
9	宝くじ	40.6
10	ガーデニング	38.3
11	ボーリング	37.3
12	遊園地	36.6
13	アウトドア活動	36.4
14	TVゲーム	32.0
15	カードゲーム他	31.6
16	運動（用具を用いない）	30.7
17	映画鑑賞	28.4
18	ウォータースポーツ	28.2
19	パチンコ	27.4
20	イベント・展覧会	27.1

日本で人気のレジャー（1996年）
注：1996年中に1度以上行ったレジャーのランキング。
出典：余暇開発センター発行『レジャー白書』

休日が2～3日間だとギャンブルは減り、ドライブやアウトドア活動、アウトドアスポーツなどが増えるのです。休日が3日以上になると、国内・海外旅行が急激に増え、また家族とのコミュニケーションや読書、学習などの自己啓発活動も増えます。

労働・観光・輸送の各業界団体は、3連休を増やすための法制化支援を呼びかけています。年に15日ある国民の休日のうち、4日（成人の日・海の日・敬老の日・体育の日）は月曜に当たるよう日付が変更できることになり、3連休化が実現されています。

大旅行時代

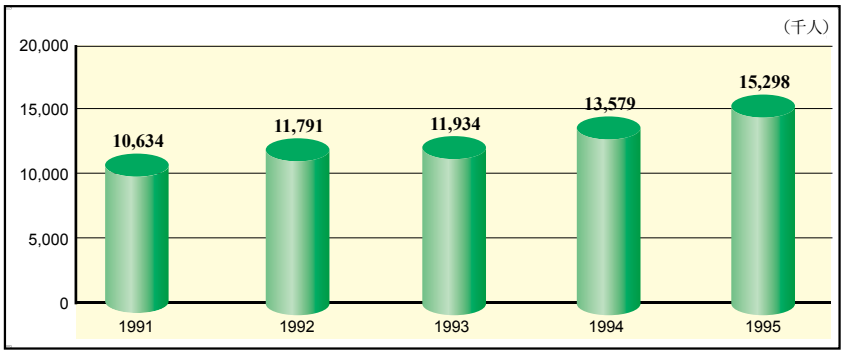
海外旅行者の数は 1990 年に 1,000 万人に達し、湾岸戦争の勃発により旅行者数の減少した 1991 年を除いて、毎年増え続けています。1996 年には 9.1 パーセント増で 1,669 万人という空前の数を記録しました。政府系団体・非政府系団体いずれの経済予測でも、経済発展は 1996 年の数値には及ばないだろうが、それでもなお、消費者の海外旅行への強い意欲によって旅行市場は拡大するだろうと予想しています。需要安定要因と考えられるのはまず費用で、これまでの 3 分の 2 に下がりました。また、1990 年の旅行費用がピークだった時に比べると、旅行は割安になったという感覚や、旅行者の 90 パーセント以上を占める常連旅行客の増加などの要因が考えられます。

一つの国に数週間から数年、中高年層が休暇のためだけに滞在するロングステイは、注目すべき現象となりました。観光旅行客や移民と異なり、これらの長期滞在者はキッチン付きのアパートなどに暮らします。そして地元の人々と交流し、言葉を学び、ボランティア活動をするのです。もう一つ影響を及ぼしている要因は強い円で、このおかげで海外での生活費が安く感じられるのです。

一方、最近は安上がりな旅行を志向する傾向も顕著で、バブル経済の崩壊後、特に目立つようになりました。人気となっている国内旅行は、日帰り旅行や車中泊のバス旅行、近距離の旅行です。アウトドアブームもこの節約傾向の一助となりました。旅館やホテルを選ぶ代わりに、多くの人がキャンプ場や実家を利用して宿泊費を浮かせるのです。パッケージツアーも人気です。北海道や九州など遠方の地域への旅行に利用でき、首都圏からは往復の飛行機料金より安く購入できます。

一つのテーマに的を絞ったテーマパークも林立しましたが、その象徴は 1983 年にオープンした東京ディズニーランドです。長崎のハウステンボスは典型的なオランダの街をコンセプトにしています。これらの成功は、地方経済の復興を目的とした地域観光の目玉として、テーマパークを計画・建設する動きに火をつけました。今では全国でこのようなテーマパークが約 70 か所営業しています。

海外旅行
新東京国際空港（成田空港）は主な連休の時期、旅行者で特に混雑する
© Yomiuri Shimbun



海外旅行した日本人の数
出典：総理府発行『観光白書』

電子レジャー

日本人独特の創造センスと電子技術好みは、カラオケやアニメ、ゲームソフト、パチンコなどの電子レジャーと呼ばれる新しいレジャーの楽しみを生み出しました。経済的な旅行への動きと併せ、このようなレジャーは一層人気になるだろうと考えられています。

ピンボールの一種であるパチンコは、多くの穴が開いた縦型のパネルをガラスのカバーで覆った機械で遊ぶものです。レバーで銀色の玉を弾いて溝に入れ、うまく穴に落とせば勝ちですが、穴のまわりの釘が邪魔をしています。玉をうまくいい穴に入れると、多くの玉を獲得することができます。玉の流れはコンピュータが制御しており、集めた玉は景品と交換することができます。パチンコは

競馬
日本の多くの競馬場に多数の観客・賭け主が惹きつけられる。JRA は多くの場外馬券売り場も運営している
© JRA

以前、一部の人だけが楽しむ一種のギャンブルでしたが、今では若い女性も楽しんでおり、大衆娯楽の王様と見なされています。1996 年、パチンコ業界の総収益は 30 兆 5,000 億円になりました。

最近では、大量の玉を吐き出す機械も出て人気を得ていますが、これは人の射幸心をそそるため、夢中になるあまりすっかり依存してしまう人々が増え続け、社会問題化しています。

また、カラオケは世界を席巻した日本の発明品です。歌の伴奏が CD やレーザーディスクに前もって録音されたシステムで、選んだ曲がかかると、エコーのついたマイクで曲に合わせて歌を歌うのです。音域やテンポは自由に変えられます。コインを投入して操作するカラオケ機器は 1970 年代初めに作られました。現在では曲はリモコンで自由に選べます。電話回線を利用したカラオケ通信機器まであります。

伝統的レジャー

競馬も人気のある射幸的娯楽で、パチンコと並んで盛んです。農水省管轄の特別団体、日本中央競馬会（JRA）が発売する馬券（勝馬投票券）は毎年利益を上げています。減少したのは阪神・淡路大震災のあった 1995 年のみで、翌年には 3 兆 9,800 億円とプラスの

パチンコ
全国的な人気のパチンコ。トレードマークはカラフルな台と陽気な音
©Kodansha

伸びに戻しました。

JRA が主催するレースは、全国 10 か所の競馬場で 1 開催につき 8 日間行われ、1 年間で 36 回、延べ 288 日間あります。そのほかに、多くの地方自治体が主催する地方競馬も、全国 30 の地方競馬場で行われています。

囲碁と将棋は代表的な日本の伝統的屋内ゲームです。囲碁は 2 人で対戦し、黒と白の石を交互に盤上に置いて、相手の石を取り、盤をより広く覆おうと競うものです。

将棋は少しチェスに似ています。駒を交互に動かして相手の王将を取るのです。将棋はインドで生まれ、中国に伝わりました。日本版将棋の特色は、取った駒を自分の駒として使えることです。多様な TV ゲーム・娯楽・レジャーのため、日本で囲碁・将棋をする人は 10 パーセント以下に減りました。

多くの日本人が海外旅行やカラオケ、パチンコを余暇に楽しんでいますが、伝統的な娯楽も行われています。桜が南から北へ開花していくに連れて楽しまれる花見は、いつの時代も変わらぬ春の行楽イベントです。また秋には多くの人が、赤く色づいた樹木を追って紅葉狩りをします。

将棋
西欧でしばしば「日本のチェス」と言われる盤上遊戯である将棋は、チェスと同様の起源を持っている。プロの棋士がトーナメント制で対戦する
© Yomiuri Shimbun